

# 松阪市民病院 経営強化プラン

(令和6～9年度)

令和6年3月

松阪市民病院

# 目次

<b>I. 松阪市民病院の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 基本理念.....	1
2. 概要.....	1
<b>II. 経営強化プランの概要</b> .....	<b>2</b>
1. 策定目的.....	2
2. 対象期間.....	2
3. 進行管理.....	2
<b>III. 松阪市民病院を取り巻く環境</b> .....	<b>3</b>
1. 当院の決算状況の推移.....	3
2. 診療報酬改定について.....	4
3. 松阪区域の人口動態について.....	5
4. 松阪区域の将来推計患者数について.....	6
(1) 松阪区域の将来推計入院患者数.....	6
(2) 松阪区域の将来推計外来患者数.....	7
5. 地区別退院患者数・占有率について.....	8
6. 地区別・年齢区分別退院患者数について.....	8
7. 地区別・診療科別退院患者数について.....	9
8. 松阪市民病院のポジショニング分析について.....	11
(1) 総合力の比較・検討.....	11
(2) 3病院の診断群(MDC)18分類の詳細な比較.....	11
9. 入院経路の分析.....	13
(1) 01神経系疾患～04呼吸器系疾患.....	13
(2) 05循環器系疾患～08皮膚・皮下組織の疾患.....	14
(3) 09乳房の疾患～12女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩.....	15
(4) 13血液・造血器・免疫臓器の疾患～16外傷・熱傷・中毒.....	16
(5) 17精神疾患・18その他の疾患.....	17
10. 高度医療の実施状況について.....	18
11. MDC別の在院日数の指標と患者構成の指標.....	19
<b>IV. 松阪市民病院の目指す姿</b> .....	<b>20</b>
<b>V. 役割・機能の最適化と連携の強化</b> .....	<b>21</b>
1. 地域医療構想等を踏まえた松阪市民病院の果たすべき役割・機能.....	21
2. 地域包括ケアシステムの構築に向けて松阪市民病院の果たすべき役割・機能.....	22
3. 機能分化・連携強化.....	22
4. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標.....	22

5. 一般会計負担の考え方 .....	23
6. 住民理解のための取組 .....	23
<b>VI. 医師・看護師等の確保と働き方改革 .....</b>	<b>24</b>
1. 医師・看護師等の確保 .....	24
2. 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保 .....	24
3. 医師の働き方改革への対応 .....	24
<b>VII. 経営形態の見直し .....</b>	<b>25</b>
<b>VIII. 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組 .....</b>	<b>26</b>
<b>IX. 施設・設備の最適化 .....</b>	<b>27</b>
1. 施設・設備の適正管理と整備費の抑制 .....	27
2. デジタル化への対応 .....	27
<b>X. 経営の効率化 .....</b>	<b>28</b>
1. 経営指標に係る数値目標 .....	28
(1) 収支改善に係るもの .....	28
(2) 収入確保に係るもの .....	28
(3) 費用削減に係るもの .....	28
(4) 経営の安定性に係るもの .....	28
2. 目標達成に向けた具体的な取組 .....	29
(1) 収入増加・確保対策 .....	29
(2) 経費削減・抑制対策 .....	29
(3) マネジメントの強化 .....	29
3. 収支計画 .....	30

## I. 松阪市民病院の概要

### 1. 基本理念

博愛と医の倫理に基づいた患者さん中心の医療を行う——  
高度かつ適正な医療を提供し、患者さんご家族の満足と信頼が得られる医療を  
推進するとともに、広く地域の皆さんの福祉に貢献する。

### 2. 概要

名 称	松阪市民病院
所 在 地	〒515-8544 三重県松阪市殿町1550番地
電話番号	0598-23-1515(代表)
開 設 年	昭和21年9月
開 設 者	松阪市長 竹上 真人
病 院 長	畑地 治
診療科目	内科、皮膚科、精神科、泌尿器科、神経内科、産婦人科、循環器内科 眼科、リウマチ科、耳鼻いんこう科、小児科、放射線科、外科、麻酔科 整形外科、リハビリテーション科、形成外科、歯科口腔外科 脳神経外科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科 病理診断科、救急科(25科)
病 床 数	一般病床 267床 地域包括ケア病床 39床 緩和ケア病床 20床 感染症病床 2床 合計 328床

## II. 経営強化プランの概要

### 1. 策定目的

令和2年からの新型コロナウイルス感染症対応において、急性期機能・医師・看護師等の集約化、各病院の機能分化・連携等を通じた役割分担の明確化・最適化の取組みを平時からより一層進めておく必要性が浮き彫りとなった。

国においては、今後も人口減少や少子高齢化が続く中、各地域において将来の医療需要を見据えつつ、新興感染症等や大規模災害などの緊急事態が発生した際にも機動的・弾力的に対応できるよう、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制を整備するため、地域医療構想や地域包括ケアシステム、医師の働き方改革や偏在対策といった各種施策を一体的に推進している。

その中で、地域として必要な医療提供体制の確保を図ることを目的として、公立病院が担うべき役割・機能を明確化・最適化するため、令和4年3月24日厚生労働省医政局長通知、及び、令和4年3月29日総務省自治財政局長通知に基づき、「公立病院の地域医療構想に係る具体的対応方針」すなわち、「公立病院経営強化プラン」を策定することが要請されている。

以上のことから、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、松阪市民病院経営強化プラン(以下、「本プラン」という。)を策定する。

### 2. 対象期間

2024(令和6)年度から2027(令和9)年度を対象期間とする。

### 3. 進行管理

本プランは、「第2次地域医療構想をふまえた松阪市民病院の在り方検討委員会」の提言と、「地域医療構想を踏まえた松阪市民病院の在り方検証委員会」の答申を基盤としている。本プランの実施状況等の進行管理については、当院内の「幹部会議」等において、毎年点検・評価を行い、ホームページ等にて公表する。

### III. 松阪市民病院を取り巻く環境

超高齢社会のさらなる進展により、過去の診療報酬改定より進められている「入院病床の機能分化の推進」に加えて、2024(令和6)年改定では「在宅医療との連携」について推進が求められている。

今後の経営の効率化のため、当院の決算状況の推移や、これまでの診療報酬改定の状況の把握のほか、地域内での医療ニーズを詳細に把握することが必要となることから、当院の地域におけるポジションを検討するため、松阪区域における人口動態及び将来推計患者数について分析を行った。

#### 1. 当院の決算状況の推移

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受療行動の変化や、感染予防対策による感染症全般への罹患の減少等により病院経営が厳しくなる中で、当院では平時の医療の提供に加え、新型コロナウイルス感染症への対応を図ってきた。新型コロナウイルス感染症対策関連補助金等の支援を受けながら、効率的な経営を心掛けたことで、経常収支比率は100%を超える水準を維持できた。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020(令和2)年度以降医業収益の確保は厳しい状況が続いており、他方新型コロナウイルス感染症に関連する補助金収入の増加に伴い、医業外収益は増加している。一方で感染症対策に要する費用や昨今の水道光熱費の高騰による影響を受けたものの、経常費用が一定になるように努めてきた。厳しい経営環境の中でも経常収支を黒字で維持し続けることができたのは、全職員一丸となって病院経営にあたってきた成果である。

図 1 当院の決算状況

(単位:千円)

収益的収支	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
<b>医業収益</b>	<b>10,078,838</b>	<b>9,481,954</b>	<b>9,400,468</b>	<b>9,435,924</b>
入院収益	5,871,052	5,480,930	5,172,018	5,251,277
外来収益	4,011,862	3,869,058	4,027,967	3,982,878
その他	195,924	131,966	200,483	201,770
(うち他会計負担金)	70,289	9,093	7,814	8,808
<b>医業費用</b>	<b>9,994,953</b>	<b>10,047,427</b>	<b>10,180,978</b>	<b>10,132,217</b>
給与費	4,632,510	4,829,651	4,655,842	4,483,400
材料費	3,618,847	3,433,669	3,618,318	3,603,320
経費	1,148,814	1,195,331	1,298,986	1,369,339
減価償却費	506,494	545,220	567,315	620,133
その他	88,288	43,557	40,517	56,025
<b>医業損益</b>	<b>83,885</b>	<b>△ 565,473</b>	<b>△ 780,510</b>	<b>△ 696,292</b>
医業外収益	698,998	2,457,370	2,980,305	2,850,446
訪問看護ステーション事業収益	25,937	24,840	20,824	17,199
居宅介護支援事業収益	607	1,578	2,588	4,336
医業外費用	643,064	760,928	774,855	915,755
訪問看護ステーション事業費用	28,233	28,237	28,405	31,279
居宅介護支援事業費用	4,084	7,565	7,324	7,098
<b>経常損益</b>	<b>134,046</b>	<b>1,121,585</b>	<b>1,412,624</b>	<b>1,221,556</b>
経常収支比率	101.3%	110.3%	112.9%	111.0%
修正医業収支比率	100.1%	94.3%	92.3%	93.0%

出所:当院決算資料をもとに作成

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

## 2. 診療報酬改定について

2022(令和4)年4月の診療報酬改定では、前回改定に引き続き、2025(令和7)年を見据えて地域包括ケアシステムを推進する内容となった。加えて感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に対応した医療機関の役割を踏まえ、機能の強化・分化が図られている。

急性期入院料においては重症度、医療・看護必要度の評価項目の見直しや入院料分類の再編、急性期充実体制加算の新設が行われた。一方で回復期医療のうち、地域包括ケア病棟入院料について、自院一般病棟からの転棟割合に制限が設けられ、また在宅復帰率の水準の引き上げが行われる等、在宅医療との連携の推進が図られている。

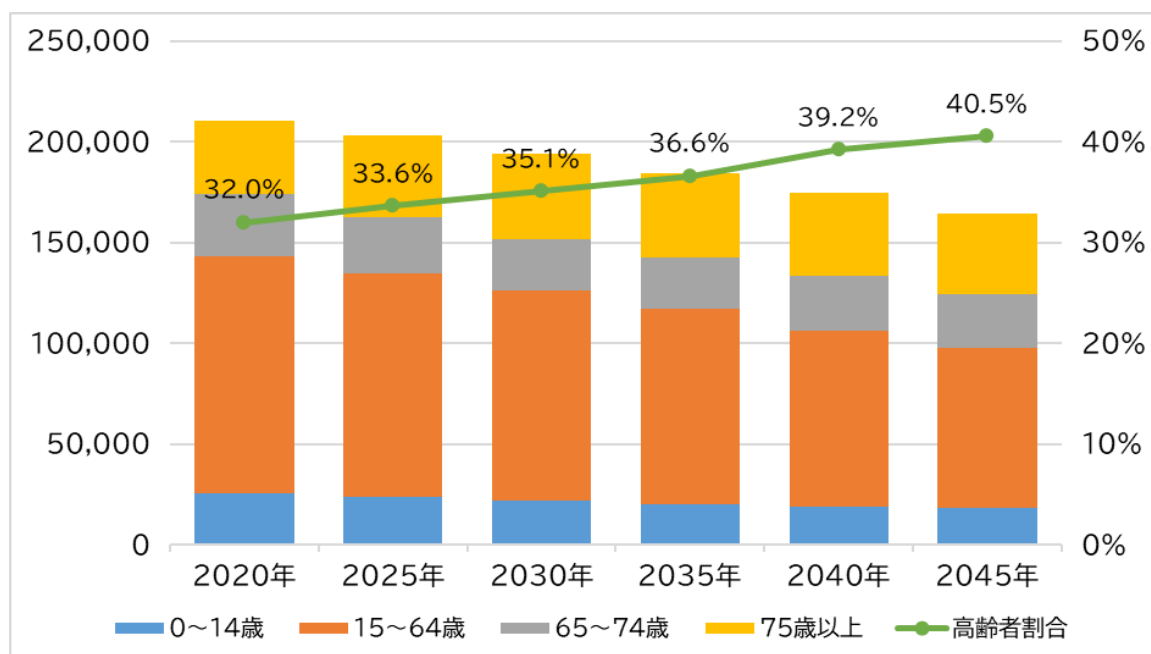
次回の診療報酬改定である2024(令和6)年改定では、診療報酬改定と同時に介護報酬の改定も行われる。当院が今後目指す病院の在り方である、地域医療のかけ橋としての役割を發揮していくためには、地域の医療機関はもとより、介護施設や介護サービス事業者との連携の重要性が高まることが考えられる。

### 3. 松阪区域の人口動態について

患者受療動向や人口の将来推計を正確に行うため、当院の属する松阪区域について年齢区分別に検証を行った。

- ・ 総人口は2020(令和2)年度を基準に2030(令和12)年は1.6万人(7.8%)減少、2045(令和27)年は4.6万人(21.8%)減少する。
- ・ 就労人口(15～64歳)は2020(令和2)年を基準に2030(令和12)年は1.3万人(11.3%)減少、2045(令和27)年は3.7万人(31.9%)減少する。
- ・ 65歳以上人口は2020(令和2)年を基準に2030(令和12)年は0.1万人(1.1%)増加、2045(令和27)年は0.1万人(1.0%)の減少となり、総人口に占める割合は40.5%となる。
- ・ 75歳以上は2020(令和2)年を基準に2030(令和12)年は0.6万人(16.8%)増加、2045(令和27)年は0.4万人(11.4%)増加する。

図2 松阪区域の人口動態



(単位:人)

区分	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0-14歳	25,659	23,626	21,803	20,219	19,047	17,911
15-64歳	117,423	111,262	104,177	96,694	86,997	79,928
65歳以上	67,331	68,386	68,058	67,573	68,496	66,679
計	210,413	203,274	194,038	184,486	174,540	164,518
(再掲)75歳以上	36,285	40,806	42,398	41,964	41,068	40,434

(出所:国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)および令和2年国勢調査結果)

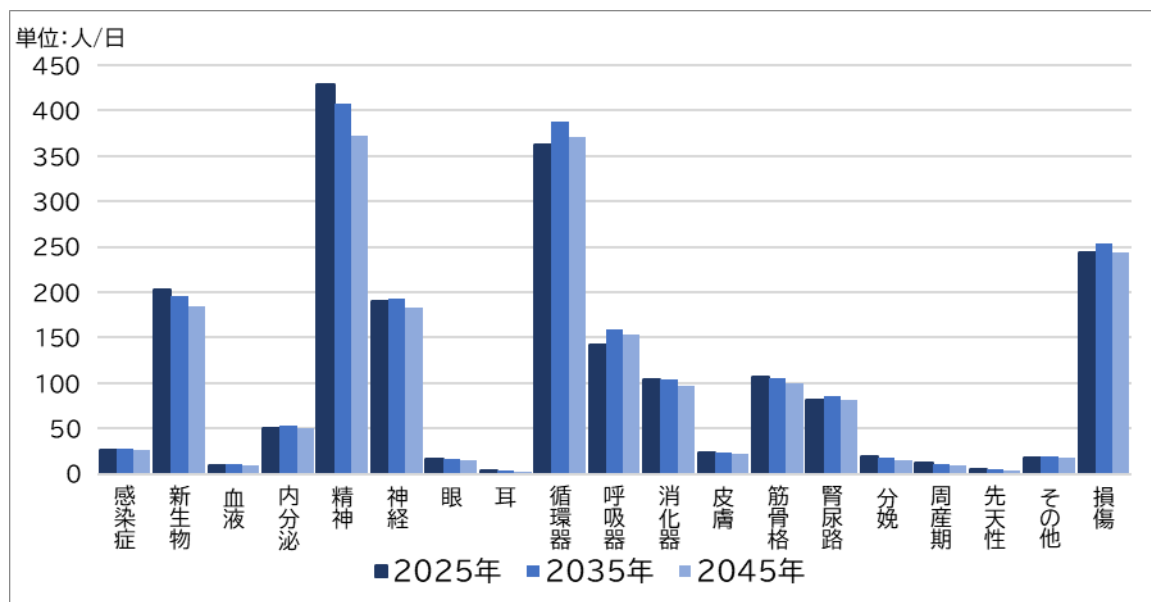


#### 4. 松阪区域の将来推計患者数について

##### (1) 松阪区域の将来推計入院患者数

- ・ 地域医療構想で示されているとおり、松阪区域は入院患者数のピークにさしかかっており、2035(令和17)年で、1日当たり2,096人が入院することが見込まれる。その後、2045(令和27)年には1日当たり1,973人になると予測される。
- ・ 中でも循環器系疾患は2035(令和17)年まで増加が見込まれており、1日当たり388人が入院することが見込まれる。
- ・ 一方で周産期疾患や地域医療構想に含まれない精神疾患は今後一貫して減少傾向にあることが見込まれる。

図3 松阪区域の将来推計入院患者数



推計年	患者総数	感染症	新生物	血液	内分泌	精神	神経	眼	耳	循環器	呼吸器
2020年	1,996	26	197	10	49	431	183	15	3	343	133
2025年	2,060	27	202	10	51	429	190	16	3	362	142
2030年	2,084	28	202	10	52	421	192	16	3	374	149
2035年	2,096	28	196	10	53	408	194	17	3	388	159
2040年	2,054	28	191	10	52	391	190	16	3	385	160
2045年	1,973	26	184	10	50	372	183	16	3	371	154

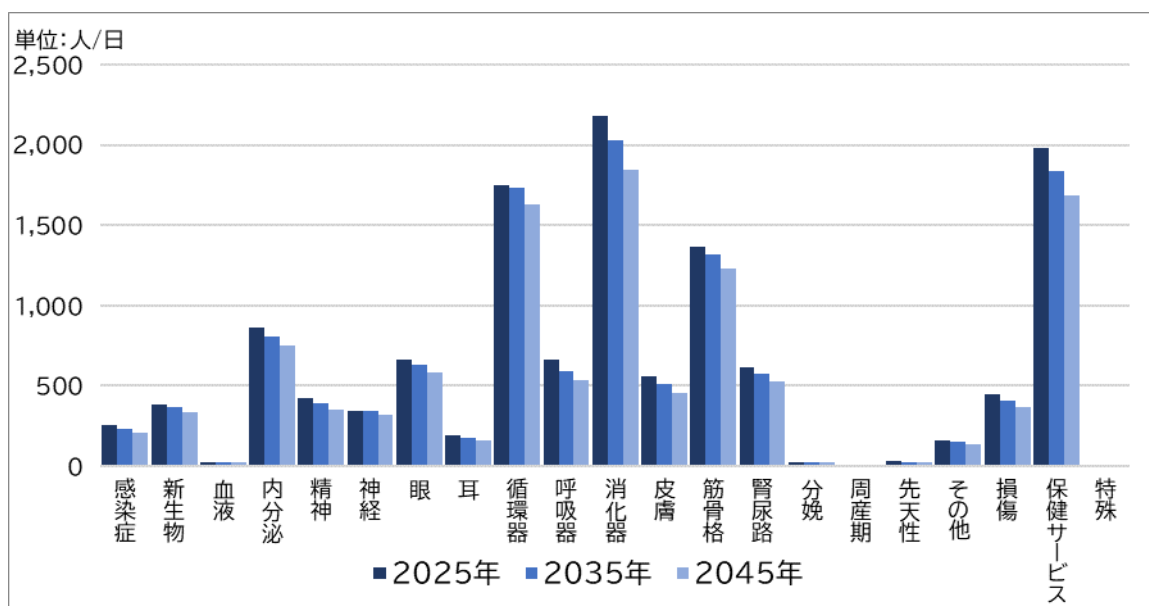
推計年	消化器	皮膚	筋骨格	腎尿路	分娩	周産期	先天性	その他	損傷	保健サービス	特殊
2020年	101	22	104	77	21	13	6	17	232	10	2
2025年	104	23	108	82	19	12	6	18	244	11	2
2030年	105	24	108	84	18	12	5	18	249	11	2
2035年	104	24	106	86	17	11	5	19	254	11	2
2040年	101	24	103	85	16	10	5	19	252	10	2
2045年	97	23	100	82	15	10	4	18	244	10	2

(出所:国立社会保障・人口問題研究所 日本の市町村別将来推計人口(平成30(2018)年推計)に、患者調査「受療率(人口10万人対)、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別」(令和2年)を乗じて算出)  
注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

## (2) 松阪区域の将来推計外来患者数

- ・ 2020(令和2)年で、1日当たり13,052人が外来受診をしているが、今後も患者が減少し、2045(令和27)年には1日当たり11,193人になると見込まれる。
- ・ すべての疾患において、今後一貫して減少傾向にあることが見込まれる。
- ・ 特に消化器系疾患においては、2020(令和2)年は2,226人であったものが2045(令和27)年には1,844人と、382人(17.2%)もの減少が見込まれる。

図4 松阪区域の将来推計外来患者数



(単位:人/日)

推計年	患者総数	感染症	新生物	血液	内分泌	精神	神経	眼	耳	循環器	呼吸器
2020年	13,052	264	389	28	856	434	336	666	192	1,705	690
2025年	12,957	257	388	27	863	422	342	668	192	1,751	660
2030年	12,651	246	379	26	849	405	342	657	187	1,756	627
2035年	12,196	232	366	25	810	392	342	631	178	1,731	594
2040年	11,740	220	354	24	783	374	334	608	168	1,693	565
2045年	11,193	209	338	23	751	353	320	582	160	1,630	533

推計年	消化器	皮膚	筋骨格	腎尿路	分娩	周産期	先天性	その他	損傷	保健サービス	特殊
2020年	2,226	583	1,348	612	29	4	30	163	461	2,036	0
2025年	2,182	563	1,370	615	27	4	29	162	449	1,986	0
2030年	2,112	537	1,361	602	25	3	27	157	432	1,919	0
2035年	2,031	510	1,317	578	24	3	25	152	411	1,841	0
2040年	1,944	482	1,279	554	23	3	24	145	387	1,775	0
2045年	1,844	455	1,229	529	21	3	22	138	365	1,688	0

(出所:国立社会保障・人口問題研究所 日本の市町村別将来推計人口(平成30(2018)年推計)に、患者調査「受療率(人口10万人対)、性・年齢階級×傷病大分類×入院一外来・都道府県別」(令和2年)を乗じて算出)  
注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

## 5. 地区別退院患者数・占有率について

当院における4年間(2019年度～2022年度)の地区別退院患者数及び占有率は、図5のとおりである。2022(令和4)年度の総退院患者数は5,747人で、そのうち4,381人を松阪区域が占めている。総退院患者数は、年々減少し、2022(令和4)年度は2019(令和元)年度に比べ1,184人(17.1%)減少した。

2022(令和4)年度の地区別占有率は、松阪区域が全体の76.2%を占め、2019(令和元)年度と比較すると4.1ポイント減少した。

中勢伊賀医療圏からの患者数が2019(令和元)年度は361人であったが、2022(令和4)年度には506人まで増加した一方、他地区からの患者については横ばい、または減少傾向にある。特に松阪区域からの患者数の減少が大きく、それに伴い占有率についても低下している。

図5 地区別退院患者数・占有率

区分	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	退院患者数	占有率	退院患者数	占有率	退院患者数	占有率	退院患者数	占有率
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
松阪	5,566	80.3	4,769	77.6	4,685	76.6	4,381	76.2
東紀州	661	9.5	615	10.0	568	9.3	508	8.8
中勢伊賀	361	5.2	421	6.8	499	8.2	506	8.8
伊勢志摩	217	3.1	242	3.9	188	3.1	211	3.7
北勢	36	0.5	28	0.5	61	1.0	27	0.5
他県	90	1.3	74	1.2	116	1.9	114	2.0
合計	6,931	100	6,149	100	6,117	100	5,747	100

(出所:院内データ(退院患者数(診療科、年齢、市区町村))より作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

## 6. 地区別・年齢区分別退院患者数について

当院への受療行動をさらに詳細に分析するため、2019(令和元)年度から2022(令和4)年度の地区別・年齢区分別退院患者数について調査した結果は図6のとおりである。

2019(令和元)年度と2022(令和4)年度の比較では、松阪区域・75歳以上の患者数の減少が大きい(1,121人)。また、松阪区域における患者の平均年齢は直近の4年間では低下傾向にあるものの、前回調査時(2015(平成27)年度)の72歳と比べると2022(令和4)年度は74.6歳となっており、患者の高齢化がより一層進んでいる。

松阪区域以外においても、前回調査時では、東紀州医療圏への退院患者の平均年齢が70歳、それ以外の区域における退院患者の平均年齢はいずれも70歳未満であったが、2022(令和4)年度では北勢医療圏を除いた全ての区域で平均年齢が70歳を超えており、他の区域から当院を受診している患者についても高齢化が進んでいることがうかがえる。高齢化の進展とともに、今後当院が対応すべき疾患はより一層、高齢者中心の疾患になることが考えられる。

図6 地区別・年齢区分別退院患者数

区分	年度	年齢区分				計 (人)	平均年齢 (歳)
		0-14歳 (人)	15-64歳 (人)	65-74歳 (人)	75歳以上 (人)		
松阪	2019年度	8	806	1,078	3,674	5,566	77.7
	2020年度	9	863	964	2,933	4,769	75.9
	2021年度	10	927	1,003	2,745	4,685	74.5
	2022年度	6	846	976	2,553	4,381	74.6
東紀州	2019年度	0	59	186	416	661	76.2
	2020年度	1	68	150	396	615	75.7
	2021年度	0	119	165	284	568	71.7
	2022年度	0	101	146	261	508	71.4
中勢伊賀	2019年度	0	98	78	185	361	72.9
	2020年度	1	135	80	205	421	70.3
	2021年度	1	163	108	227	499	69.0
	2022年度	0	157	107	242	506	70.3
伊勢志摩	2019年度	0	45	38	134	217	75.1
	2020年度	1	46	57	138	242	74.0
	2021年度	0	36	40	112	188	73.4
	2022年度	1	46	52	112	211	72.7
北勢	2019年度	0	14	5	17	36	66.4
	2020年度	0	10	5	13	28	67.3
	2021年度	0	41	8	12	61	59.7
	2022年度	0	9	9	9	27	65.9
他県	2019年度	0	21	37	32	90	69.7
	2020年度	0	14	43	17	74	67.7
	2021年度	0	34	28	54	116	67.1
	2022年度	0	23	44	47	114	70.6
合計	2019年度	8	1,043	1,422	4,458	6,931	—
	2020年度	12	1,136	1,299	3,702	6,149	—
	2021年度	11	1,320	1,352	3,434	6,117	—
	2022年度	7	1,182	1,334	3,224	5,747	—

(出所:院内データ(退院患者数(診療科、年齢、市区町村))より作成)

## 7. 地区別・診療科別退院患者数について

2019(令和元)年度から2022(令和4)年度における退院患者を地域別・診療科別に調査した結果は図7のとおりである。

2022(令和4)年度の退院患者の多い診療科は、呼吸器内科、消化器内科、外科・消化器外科である。松阪区域の患者が呼吸器内科では67.6%を占めており、消化器内科では88.9%、外科・消化器外科では73.9%を占めている。

また、呼吸器内科、外科・消化器外科については、松阪区域外からの患者数が多い。呼吸器内科は東紀州医療圏からの患者が多く、外科・消化器外科は中勢伊賀医療圏からの患者が多い。

2019(令和元)年度と2022(令和4)年度の患者数比較では、患者数が多い主要な診療科のうち、呼吸器内科、呼吸器外科、歯科口腔外科を除き患者数が減少している。特に、泌尿器科と整形外科は2019(令和元)年度以降一貫して患者数が減少していることに加え、循環器内科は2019(令和元)年度と比較すると2022(令和4)年度は患者数が401人(49.1%)減少している。

多くの診療科で患者数が減少しているものの、当院の強みである呼吸器内科は患者数を多

く確保しており、2021(令和3)年度は2,420人、2022(令和4)年度は2,318人もの患者に対応している。

引き続き、主要な診療科においては、松阪区域内を中心に対応しつつ、当院の強みである呼吸器内科では、松阪区域外からも幅広く患者を受け入れることが経営上重要となってくるため、患者診療体制を整備・強化(医師の確保)し、医療の質向上を図るとともに地域医療機関との連携強化を行う必要がある。

図7 地区別・診療科別退院患者数

区分	年度	診療科												計
		呼吸器内科	消化器内科	外科 消化器外科	循環器内科	泌尿器科	整形外科	眼科	呼吸器外科	歯科口腔 外科	緩和ケア	皮膚科	放射線科	
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
松阪	2019年度	1,626	983	637	750	438	445	377	119	99	74	14	4	5,566
	2020年度	1,352	905	574	554	417	399	259	110	113	74	12	0	4,769
	2021年度	1,592	979	474	350	342	383	343	91	116	11	4	0	4,685
	2022年度	1,566	659	547	373	343	351	328	90	115	0	9	0	4,381
松阪以外 合計	2019年度	675	119	107	67	155	58	114	35	17	16	1	1	1,365
	2020年度	740	94	152	62	120	47	84	54	20	7	0	0	1,380
	2021年度	828	100	167	36	108	33	66	72	20	2	0	0	1,432
	2022年度	752	82	193	43	93	45	64	64	28	0	2	0	1,366
東紀州	2019年度	393	46	40	6	112	26	7	24	4	2	0	1	661
	2020年度	414	24	27	16	77	22	4	23	5	3	0	77	615
	2021年度	407	23	15	17	54	8	8	26	8	2	0	0	568
	2022年度	328	30	18	13	57	17	5	31	9	0	0	0	508
中勢伊賀	2019年度	120	26	43	34	31	9	79	4	8	6	1	0	361
	2020年度	132	27	102	26	37	9	64	9	12	3	0	0	421
	2021年度	208	39	117	11	43	9	46	20	6	0	0	43	499
	2022年度	203	29	160	14	18	11	40	18	12	0	1	0	506
伊勢志摩	2019年度	105	34	12	19	8	11	14	5	3	6	0	0	217
	2020年度	141	37	8	11	5	10	11	17	1	1	0	0	242
	2021年度	98	27	19	7	7	6	5	14	5	0	0	0	188
	2022年度	128	17	11	9	12	11	10	8	4	0	1	0	211
北勢	2019年度	7	3	3	5	0	4	13	0	0	1	0	0	36
	2020年度	9	2	3	3	1	3	4	1	2	0	0	0	28
	2021年度	41	3	5	0	1	4	6	0	1	0	0	0	61
	2022年度	9	1	2	3	1	0	8	1	2	0	0	0	27
他県	2019年度	50	10	9	3	4	8	1	2	2	1	0	0	90
	2020年度	44	4	12	6	0	3	1	4	0	0	0	0	74
	2021年度	74	8	11	1	3	6	1	12	0	0	0	0	116
	2022年度	84	5	2	4	5	6	1	6	1	0	0	0	114
合計	2019年度	2,301	1,102	744	817	593	503	491	154	116	90	15	5	6,931
	2020年度	2,092	999	726	616	537	446	343	164	133	81	12	0	6,149
	2021年度	2,420	1,079	641	386	450	416	409	163	136	13	4	0	6,117
	2022年度	2,318	741	740	416	436	396	392	154	143	0	11	0	5,747
	2019年度 対 2022年度 患者増減率	0.7%	▲32.8%	▲0.5%	▲49.1%	▲26.5%	▲21.3%	▲20.2%	0.0%	23.3%	▲100.0%	▲26.7%	▲100.0%	▲17.1%

(出所:院内データ(退院患者数(診療科、年齢、市区町村))より作成)

## 8. 松阪市民病院のポジショニング分析について

厚生労働省が毎年公表している DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」(以下、DPC 退院患者調査という。)をもとに、松阪区域の3基幹病院の疾病分類ごとの患者割合について分析を行った。

### (1) 総合力の比較・検討

2021(令和3)年度の3病院における診断群(MDC)18分類の合計占有率は、松阪中央総合病院が最も多く、全体の47.0%を占め、済生会松阪総合病院は41.8%、当院は11.2%と総合力において他の2病院との差が開いている。

ただし、当院は直近の3年間においては、新型コロナウイルス感染症の入院患者(DPC対象外)の受入れを多く行っていたこともあり、DPC 患者割合が減っていた点に留意する必要がある。

### (2) 3病院の診断群(MDC)18分類の詳細な比較

呼吸器系疾患(MDC04)については2020(令和2)年度までは60%に近い占有率で他2病院を大きく引き離していたものの、2021(令和3)年度は新型コロナウイルス感染症の患者を多く受け入れていたこともあり、占有率は33.5%と低下し、松阪中央総合病院と占有率が逆転している。

循環器系疾患(MDC05)については当院に心臓血管外科がない等により単純な比較はできないが、占有率は大きく低下している。

消化器系疾患(MDC06)についても同様に当院の占有率は低下しているものの、当院の基盤となる診療部門であり対象患者数も多いため、今後診療体制の強化・充実を図り底上げする必要がある。

図8 3病院の診断群(MDC)18 分類の比較

	松阪市民病院			済生会松阪総合病院			松阪中央総合病院		
	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
01 神経系疾患	7.9%	6.9%	5.7%	36.0%	33.2%	37.4%	56.1%	60.0%	56.9%
02 眼科系疾患	22.8%	3.4%	2.6%	41.9%	56.4%	53.8%	35.2%	40.1%	43.6%
03 耳鼻咽喉科系疾患	8.8%	7.2%	0.0%	15.3%	21.5%	20.7%	75.9%	71.3%	79.3%
04 呼吸器系疾患	58.1%	58.9%	33.5%	16.6%	16.1%	27.0%	25.3%	24.9%	39.5%
05 循環器系疾患	30.7%	24.1%	8.4%	22.8%	22.5%	34.1%	46.5%	53.4%	57.5%
06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	20.7%	21.2%	11.5%	37.3%	38.7%	43.6%	42.0%	40.1%	44.9%
07 筋骨格系疾患	9.9%	7.7%	4.0%	58.5%	57.2%	57.2%	31.6%	35.1%	38.8%
08 皮膚・皮下組織の疾患	21.6%	13.5%	0.0%	38.7%	43.2%	41.7%	39.7%	43.2%	58.3%
09 乳房の疾患	18.3%	18.6%	9.1%	44.9%	40.2%	43.6%	36.8%	41.3%	47.2%
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	20.5%	14.8%	8.5%	37.3%	40.4%	45.0%	42.2%	44.9%	46.4%
11 腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	24.7%	21.0%	12.5%	38.7%	40.0%	47.3%	36.6%	39.0%	40.2%
12 女性生殖系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	0.0%	0.0%	0.0%	79.6%	83.2%	81.1%	20.4%	16.8%	18.9%
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	5.4%	4.7%	5.7%	23.1%	28.8%	24.7%	71.4%	66.5%	69.7%
14 新生児疾患、先天性奇形	0.0%	0.0%	0.0%	91.3%	92.9%	89.5%	8.7%	7.1%	10.5%
15 小児疾患	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
16 外傷・熱傷・中毒	12.6%	12.3%	8.3%	43.4%	42.1%	40.1%	44.0%	45.5%	51.7%
17 精神疾患	—	—	0.0%	—	—	0.0%	—	—	100.0%
18 その他の疾患	21.0%	12.3%	7.3%	27.7%	25.3%	25.3%	51.3%	62.3%	67.5%
合計	25.3%	22.5%	11.2%	34.7%	36.3%	41.8%	40.0%	41.3%	47.0%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

## 9. 入院経路の分析

DPC 退院患者調査をもとに、松阪区域の3基幹病院における疾病分類別・入院経路別患者数とその患者数の占有率について分析を行った。なお、出典の集計条件により10件未満または0件の場合は“－”と表記されるため、“－”と表記の場合は、件数を0件、占有率を0%とみなすこととしている。

### (1) 01神経系疾患～04呼吸器系疾患

- ・ 神経系疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて予定外入院の占有率が上昇傾向にあり、2021(令和3)年度は2020(令和2)年度と比べ、6.8ポイント上昇している。
- ・ 眼科系疾患について、当院は2020(令和2)年度以降、予定入院の占有率が大きく低下している。なお、占有率が低下した主な理由は、眼科系疾患の予定入院患者を病床運営上の理由からDPC対象外の病床で受入れを行ったためである。
- ・ 耳鼻咽喉科系疾患について、当院は2020(令和2)年度及び2021(令和3)年度の占有率が0%となっている。
- ・ 呼吸器系疾患について、当院は予定入院の占有率が非常に高く、安定した患者確保を行うことができている。

図9 入院経路(01神経系疾患～04呼吸器系疾患)別患者数と占有率の推移

【患者数】		01 神経系疾患				02 眼科系疾患				03 耳鼻咽喉科系疾患				04 呼吸器系疾患			
施設名	年度	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院
		松阪市民病院	2019年度	-	-	25	84	221	-	-	-	11	-	23	-	449	725
2020年度	-		-	19	62	21	-	-	-	-	-	-	-	408	579	206	422
2021年度	-		-	23	54	17	-	-	-	-	-	-	-	137	-	148	346
済生会松阪総合病院	2019年度	113	-	56	308	393	-	-	-	-	-	28	26	10	-	103	484
	2020年度	82	-	48	238	308	-	-	-	-	-	25	21	-	-	104	343
	2021年度	87	-	51	288	361	-	-	-	-	-	34	25	-	-	186	325
松阪中央総合病院	2019年度	217	-	94	437	331	-	-	-	54	-	136	84	49	-	189	678
	2020年度	152	-	54	448	223	-	-	-	45	-	28	81	52	-	28	614
	2021年度	149	-	28	473	290	-	-	-	58	-	15	161	46	-	13	700
合計	2019年度	330	-	175	829	945	-	-	-	65	-	187	110	508	725	607	1,719
	2020年度	234	-	121	748	552	-	-	-	45	-	53	102	460	579	338	1,379
	2021年度	236	-	102	815	668	-	-	-	58	-	49	186	183	-	347	1,371
【入院経路ごとの占有率】																	
松阪市民病院	2019年度	0.0%	-	14.3%	10.1%	23.4%	-	-	-	16.9%	-	12.3%	0.0%	88.4%	100.0%	51.9%	32.4%
	2020年度	0.0%	-	15.7%	8.3%	3.8%	-	-	-	0.0%	-	0.0%	0.0%	88.7%	100.0%	60.9%	30.6%
	2021年度	0.0%	-	22.5%	6.6%	2.5%	-	-	-	0.0%	-	0.0%	0.0%	74.9%	-	42.7%	25.2%
済生会松阪総合病院	2019年度	34.2%	-	32.0%	37.2%	41.6%	-	-	-	0.0%	-	15.0%	23.6%	2.0%	0.0%	17.0%	28.2%
	2020年度	35.0%	-	39.7%	31.8%	55.8%	-	-	-	0.0%	-	47.2%	20.6%	0.0%	0.0%	30.8%	24.9%
	2021年度	36.9%	-	50.0%	35.3%	54.0%	-	-	-	0.0%	-	69.4%	13.4%	0.0%	-	53.6%	23.7%
松阪中央総合病院	2019年度	65.8%	-	53.7%	52.7%	35.0%	-	-	-	83.1%	-	72.7%	76.4%	9.6%	0.0%	31.1%	39.4%
	2020年度	65.0%	-	44.6%	59.9%	40.4%	-	-	-	100.0%	-	52.8%	79.4%	11.3%	0.0%	8.3%	44.5%
	2021年度	63.1%	-	27.5%	58.0%	43.4%	-	-	-	100.0%	-	30.6%	86.6%	25.1%	-	3.7%	51.1%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。



## (2) 05循環器系疾患～08皮膚・皮下組織の疾患

- ・ 循環器系疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて予定入院と救急医療入院の占有率が低下しており、予定入院は2021(令和3)年度に占有率が0%、救急医療入院の占有率は13.6%と、2020(令和2)年度と比べ7.4ポイント低下している。
- ・ 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて予定入院、化学療法実施の再入院、予定外入院で占有率が低下しており、特に化学療法実施の再入院については、2021(令和3)年度は占有率が0%となっている。
- ・ 筋骨格系疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて予定入院の患者が減少し、2021(令和3)年度は予定入院の占有率が0%となっている。
- ・ 皮膚・皮下組織の疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて予定入院、予定外入院、救急医療入院の患者が減少し、2021(令和3)年度に全ての入院経路で占有率が0%となっている。

図10 入院経路(05循環器系疾患～08皮膚・皮下組織の疾患)別患者数と占有率の推移

【患者数】

施設名	年度	05 循環器系疾患				06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患				07 筋骨格系疾患				08 皮膚・皮下組織の疾患			
		予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院
松阪市民病院	2019年度	373	-	36	260	377	174	237	340	35	-	30	-	13	-	19	12
	2020年度	233	-	43	206	296	209	214	279	26	-	17	-	-	-	10	10
	2021年度	-	-	31	127	104	-	176	221	-	-	17	-	-	-	-	-
済生会松阪総合病院	2019年度	168	-	47	272	900	188	335	596	396	-	23	16	28	-	14	36
	2020年度	145	-	41	262	814	160	468	385	348	-	33	16	19	-	22	22
	2021年度	216	-	61	315	924	117	566	268	352	-	40	-	-	-	21	20
松阪中央総合病院	2019年度	530	-	39	421	952	222	218	899	137	-	58	42	-	-	19	51
	2020年度	484	-	41	513	819	170	186	727	143	-	46	54	-	-	-	51
	2021年度	492	-	22	491	865	155	45	871	163	-	51	56	13	-	-	54
合計	2019年度	1,071	-	122	953	2,229	584	790	1,835	568	-	111	58	41	-	52	99
	2020年度	862	-	125	981	1,929	539	868	1,391	517	-	96	70	19	-	32	83
	2021年度	708	-	114	933	1,893	272	787	1,360	515	-	108	56	13	-	21	74

【入院経路ごとの占有率】

松阪市民病院	2019年度	34.8%	-	29.5%	27.3%	16.9%	29.8%	30.0%	18.5%	6.2%	-	27.0%	0.0%	31.7%	-	36.5%	12.1%
	2020年度	27.0%	-	34.4%	21.0%	15.3%	38.8%	24.7%	20.1%	5.0%	-	17.7%	0.0%	0.0%	-	31.3%	12.0%
	2021年度	0.0%	-	27.2%	13.6%	5.5%	0.0%	22.4%	16.3%	0.0%	-	15.7%	0.0%	0.0%	-	0.0%	0.0%
済生会松阪総合病院	2019年度	15.7%	-	38.5%	28.5%	40.4%	32.2%	42.4%	32.5%	69.7%	-	20.7%	27.6%	68.3%	-	26.9%	36.4%
	2020年度	16.8%	-	32.8%	26.7%	42.2%	29.7%	53.9%	27.7%	67.3%	-	34.4%	22.9%	100.0%	-	68.8%	26.5%
	2021年度	30.5%	-	53.5%	33.8%	48.8%	43.0%	71.9%	19.7%	68.3%	-	37.0%	0.0%	0.0%	-	100.0%	27.0%
松阪中央総合病院	2019年度	49.5%	-	32.0%	44.2%	42.7%	38.0%	27.6%	49.0%	24.1%	-	52.3%	72.4%	0.0%	-	36.5%	51.5%
	2020年度	56.1%	-	32.8%	52.3%	42.5%	31.5%	21.4%	52.3%	27.7%	-	47.9%	77.1%	0.0%	-	0.0%	61.4%
	2021年度	69.5%	-	19.3%	52.6%	45.7%	57.0%	5.7%	64.0%	31.7%	-	47.2%	100.0%	100.0%	-	0.0%	73.0%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

### (3) 09乳房の疾患～12女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩

- ・ 乳房の疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて予定入院の占有率が上昇しており、2021(令和3)年度の占有率は12.5%となっている。一方、化学療法実施の再入院の占有率は、2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて低下しており、2021(令和3)年度の占有率は0%となっている。
- ・ 内分泌・栄養・代謝に関する疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけ救急医療入院の占有率が低下しており、2021(令和3)年度は2020(令和2)年度と比べ5.4ポイント低下し9.9%となっている。また、予定入院についても2021(令和3)年度は占有率が0%となっている。
- ・ 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけていずれの入院経路においても占有率が低下している。
- ・ 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩について、当院はいずれの入院経路においても占有率は0%となっている。

図11 入院経路(09乳房の疾患～12女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩)別患者数と占有率の推移

【患者数】		09 乳房の疾患				10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患				11 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患				12 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩			
施設名	年度	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院
松阪市民病院	2019年度	20	35	-	-	15	-	19	67	297	41	106	127	-	-	-	-
	2020年度	36	26	-	-	15	-	22	31	225	26	85	128	-	-	-	-
	2021年度	33	-	-	-	-	-	18	19	112	-	51	83	-	-	-	-
済生会松阪総合病院	2019年度	129	-	-	-	41	-	49	82	476	33	93	289	444	63	83	109
	2020年度	128	-	13	-	41	-	51	70	513	55	140	174	461	86	79	62
	2021年度	140	-	-	-	30	-	79	53	507	81	178	164	390	79	98	95
松阪中央総合病院	2019年度	81	32	-	-	52	-	48	95	486	20	44	295	132	21	-	25
	2020年度	80	63	-	-	51	-	29	101	453	32	25	343	115	15	-	18
	2021年度	90	66	-	14	37	-	-	120	431	32	-	323	113	15	-	22
合計	2019年度	230	67	-	-	108	-	116	244	1,259	94	243	711	576	84	83	134
	2020年度	244	89	13	-	107	-	102	202	1,191	113	250	645	576	101	79	80
	2021年度	263	66	-	14	67	-	97	192	1,050	113	229	570	503	94	98	117
【入院経路ごとの占有率】																	
松阪市民病院	2019年度	8.7%	52.2%	-	-	13.9%	-	16.4%	27.5%	23.6%	43.6%	43.6%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	2020年度	14.8%	29.2%	0.0%	-	14.0%	-	21.6%	15.3%	18.9%	23.0%	34.0%	19.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	2021年度	12.5%	0.0%	-	0.0%	0.0%	-	18.6%	9.9%	10.7%	0.0%	22.3%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
済生会松阪総合病院	2019年度	56.1%	0.0%	-	-	38.0%	-	42.2%	33.6%	37.8%	35.1%	38.3%	40.6%	77.1%	75.0%	100.0%	81.3%
	2020年度	52.5%	0.0%	100.0%	-	38.3%	-	50.0%	34.7%	43.1%	48.7%	56.0%	27.0%	80.0%	85.1%	100.0%	77.5%
	2021年度	53.2%	0.0%	-	0.0%	44.8%	-	81.4%	27.6%	48.3%	71.7%	77.7%	28.8%	77.5%	84.0%	100.0%	81.2%
松阪中央総合病院	2019年度	35.2%	47.8%	-	-	48.1%	-	41.4%	38.9%	38.6%	21.3%	18.1%	41.5%	22.9%	25.0%	0.0%	18.7%
	2020年度	32.8%	70.8%	0.0%	-	47.7%	-	28.4%	50.0%	38.0%	28.3%	10.0%	53.2%	20.0%	14.9%	0.0%	22.5%
	2021年度	34.2%	100.0%	-	100.0%	55.2%	-	0.0%	62.5%	41.0%	28.3%	0.0%	56.7%	22.5%	16.0%	0.0%	18.8%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

#### (4) 13血液・造血器・免疫臓器の疾患～16外傷・熱傷・中毒

- 血液・造血器・免疫臓器の疾患について、当院は救急医療入院の占有率が上昇傾向にあり、2021(令和3)年度の占有率は11.2%となっている。
- 新生児疾患、先天性奇形、小児疾患について、当院はいずれの入院経路においても占有率は0%となっている。
- 外傷・熱傷・中毒について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて救急医療入院の占有率に大きな変化は見られないが、予定外入院の占有率は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて低下し、2021(令和3)年度は8.5%まで低下している。また、予定入院について、2021(令和3)年度は占有率が0%となっている。

図12 入院経路(13血液・造血器・免疫臓器の疾患～16外傷・熱傷・中毒)別患者数と占有率の推移

【患者数】																	
施設名	年度	13 血液・造血器・免疫臓器の疾患				14 新生児疾患、先天性奇形				15 小児疾患				16 外傷・熱傷・中毒			
		予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院
松阪市民病院	2019年度	-	-	13	21	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	72	40
	2020年度	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	35	-	72	40
	2021年度	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	41
済生会松阪総合病院	2019年度	22	87	30	40	-	-	-	-	-	-	-	-	117	-	217	137
	2020年度	19	106	53	30	-	-	-	-	-	-	-	-	103	-	281	104
	2021年度	22	67	41	27	-	-	-	-	-	-	-	-	91	-	263	108
松阪中央総合病院	2019年度	66	223	29	226	-	-	12	-	-	-	17	-	75	-	180	236
	2020年度	92	175	45	172	-	-	-	-	-	-	-	16	84	-	189	250
	2021年度	52	203	-	179	-	-	-	16	-	-	-	13	83	-	275	253
合計	2019年度	88	310	72	287	-	-	12	-	-	-	17	-	219	-	469	413
	2020年度	111	281	98	222	-	-	-	-	-	-	-	16	222	-	542	394
	2021年度	74	270	41	232	-	-	-	16	-	-	-	13	174	-	588	402

【入院経路ごとの占有率】																	
松阪市民病院	2019年度	0.0%	0.0%	18.1%	7.3%	-	-	0.0%	-	-	-	0.0%	-	12.3%	-	15.4%	9.7%
	2020年度	0.0%	0.0%	0.0%	9.0%	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	15.8%	-	13.3%	10.2%
	2021年度	0.0%	0.0%	0.0%	11.2%	-	-	-	0.0%	-	-	-	0.0%	0.0%	-	8.5%	10.2%
済生会松阪総合病院	2019年度	25.0%	28.1%	41.7%	13.9%	-	-	0.0%	-	-	-	0.0%	-	53.4%	-	46.3%	33.2%
	2020年度	17.1%	37.7%	54.1%	13.5%	-	-	-	-	-	-	0.0%	-	46.4%	-	51.8%	26.4%
	2021年度	29.7%	24.8%	100.0%	11.6%	-	-	-	0.0%	-	-	0.0%	-	52.3%	-	44.7%	26.9%
松阪中央総合病院	2019年度	75.0%	71.9%	40.3%	78.7%	-	-	100.0%	-	-	-	100.0%	-	34.2%	-	38.4%	57.1%
	2020年度	82.9%	62.3%	45.9%	77.5%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%	37.8%	-	34.9%	63.5%
	2021年度	70.3%	75.2%	0.0%	77.2%	-	-	-	100.0%	-	-	-	100.0%	47.7%	-	46.8%	62.9%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

(5) 17精神疾患・18その他の疾患

- 精神疾患について、当院はいずれの入院経路においても占有率は0%となっている。
- その他の疾患(敗血症や手術・処置等の合併症、他のMDCに分類されない感染症や悪性腫瘍、新生物等)について、当院は2019(令和元)年度から2021(令和3)年度にかけて救急医療入院の占有率が低下し、2021(令和3)年度は5.2%となっている。

図13 入院経路(17精神疾患、18その他の疾患)別患者数と占有率の推移

【患者数】										
施設名	年度	17 精神疾患				18 その他の疾患				
		予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	
松阪市民病院	2019年度	-	-	-	-	-	-	-	11	33
	2020年度	-	-	-	-	-	-	-	-	24
	2021年度	-	-	-	-	-	-	-	13	15
済生会松阪総合病院	2019年度	-	-	-	-	-	-	-	16	34
	2020年度	-	-	-	-	14	-	-	23	42
	2021年度	-	-	-	-	12	-	-	23	61
松阪中央総合病院	2019年度	-	-	-	10	27	-	-	-	87
	2020年度	-	-	-	-	37	-	-	13	144
	2021年度	-	-	-	14	29	-	-	14	211
合計	2019年度	-	-	-	10	27	-	-	27	154
	2020年度	-	-	-	-	51	-	-	36	210
	2021年度	-	-	-	14	41	-	-	50	287

【入院経路ごとの占有率】										
施設名	年度	17 精神疾患				18 その他の疾患				
		予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	予定入院	化学療法実施の再入院	予定外入院	救急医療入院	
松阪市民病院	2019年度	-	-	-	0.0%	0.0%	-	-	40.7%	21.4%
	2020年度	-	-	-	-	0.0%	-	-	0.0%	11.4%
	2021年度	-	-	-	0.0%	0.0%	-	-	26.0%	5.2%
済生会松阪総合病院	2019年度	-	-	-	0.0%	0.0%	-	-	59.3%	22.1%
	2020年度	-	-	-	-	27.5%	-	-	63.9%	20.0%
	2021年度	-	-	-	0.0%	29.3%	-	-	46.0%	21.3%
松阪中央総合病院	2019年度	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	0.0%	56.5%
	2020年度	-	-	-	-	72.5%	-	-	36.1%	68.6%
	2021年度	-	-	-	100.0%	70.7%	-	-	28.0%	73.5%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

## 10. 高度医療の実施状況について

松阪地域の3基幹病院における DPC 入院患者数は2019(令和元)年度と比較して、2020(令和2)年度はいずれの病院も大きく減少したものの、当院を除く2基幹病院では2021(令和3)年度は前年度と比べ患者数が増加している。

当院は2基幹病院ほど DPC 対象の患者が増加していない一方で、化学療法や放射線療法については患者数を維持しており、特に化学療法においては3基幹病院内でのシェアもさらに高めている状態である。

一方で救急車搬送件数については減少傾向にあり、入院患者の多くは救急からのケースが多いことから、当該分野の診療体制を強化する必要がある。

図14 高度医療の実施状況

施設名	年度	件数						
		総数	手術、化学療法、放射線療法、救急車搬送のうち					全身麻酔
			手術有	化学療法有	放射線療法有	救急車搬送有	いずれか有	
松阪市民病院	2019年度	5,276	1,738	1,154	119	1,062	3,615	653
	2020年度	4,357	1,359	1,105	120	799	2,985	540
	2021年度	4,115	1,242	1,166	118	706	2,890	505
済生会松阪総合病院	2019年度	7,213	3,443	493	26	1,776	5,163	1,390
	2020年度	6,640	3,363	517	23	1,683	4,931	1,343
	2021年度	7,003	3,385	483	42	1,857	5,124	1,232
松阪中央総合病院	2019年度	8,254	3,645	710	93	2,381	5,981	1,352
	2020年度	7,462	3,399	636	76	2,343	5,603	1,314
	2021年度	7,757	3,471	628	70	2,600	5,902	1,321

施設名	年度	割合					
		手術、化学療法、放射線療法、救急車搬送のうち					全身麻酔
		手術有	化学療法有	放射線療法有	救急車搬送有	いずれか有	
松阪市民病院	2019年度	32.9%	21.9%	2.3%	20.1%	68.5%	12.4%
	2020年度	31.2%	25.4%	2.8%	18.3%	68.5%	12.4%
	2021年度	30.2%	28.3%	2.9%	17.2%	70.2%	12.3%
済生会松阪総合病院	2019年度	47.7%	6.8%	0.4%	24.6%	71.6%	19.3%
	2020年度	50.6%	7.8%	0.3%	25.3%	74.3%	20.2%
	2021年度	48.3%	6.9%	0.6%	26.5%	73.2%	17.6%
松阪中央総合病院	2019年度	44.2%	8.6%	1.1%	28.8%	72.5%	16.4%
	2020年度	45.6%	8.5%	1.0%	31.4%	75.1%	17.6%
	2021年度	44.7%	8.1%	0.9%	33.5%	76.1%	17.0%

(出所:厚生労働省 令和元年度～令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

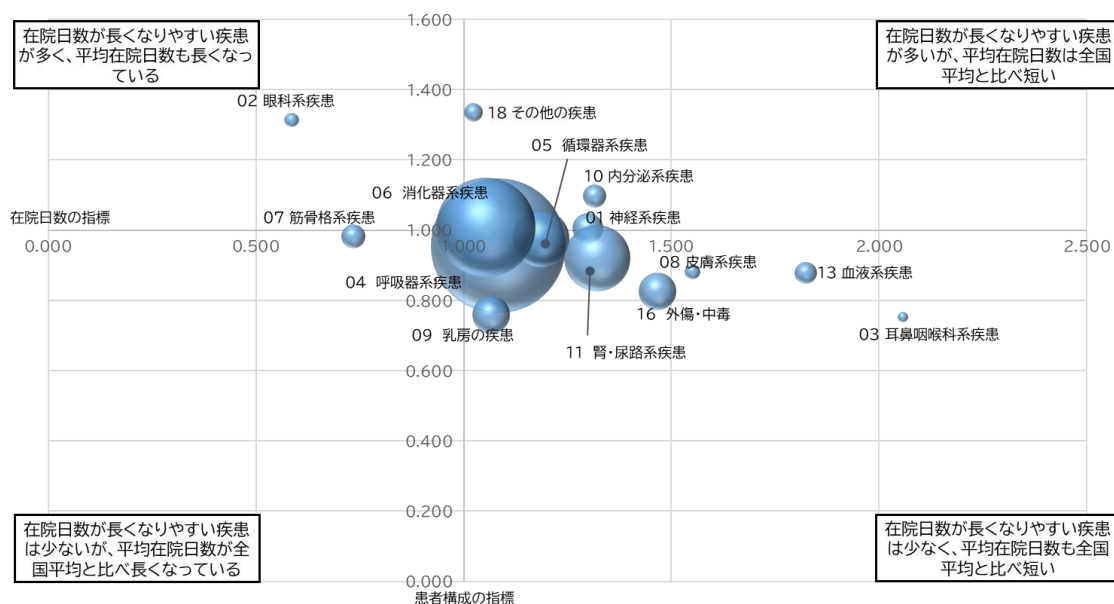
## 11. MDC 別の在院日数の指標と患者構成の指標

在院日数の指標は、疾患の重症度を加味した際の当院の在院日数を評価しており、患者構成の指標は在院日数が長くなりやすいような複雑な疾患の患者をどの程度診療したかを評価している。

当院で最も患者数を占める呼吸器系疾患は、2021(令和3)年度は、全国平均と同程度を示す1を、在院日数の指標では上回っており、患者構成の指標ではやや下回っていることから、呼吸器系疾患を効率的に診療していると評価できる。

一方で、消化器系疾患や循環器系疾患については、いずれの指標も1をやや上回っていることから、複雑な疾患も受け入れながら、効率的に診療をしていると評価できる。

図15 MDC 別の在院日数の指標と患者構成の指標 (2021(令和3)年度)



(出所:厚生労働省 令和3年度 DPC 退院患者調査をもとに作成)

#### IV. 松阪市民病院の目指す姿

当院を取りまく環境は、高齢化の進展とそれに伴う疾病構造の変化が見込まれ、地域医療構想においても回復期機能が不足すると見込まれている。

また、少子化の進展や人口減少に伴う労働人口の減少が懸念されている中、質の高い医療を提供する体制を維持・継続するとともに、新興感染症の感染拡大や医師の働き方改革といった新たな課題に対応していくことが求められている。

このような状況の中で、松阪市民病院の在り方検討委員会・検証委員会においては、今後当院が目指す姿として、「地域包括ケアシステムを構築していくために、当院は地域包括ケア病床を中心とした病院に機能転換し、高度急性期・急性期・慢性期・診療所・在宅医療・介護等をつなぐ地域医療のかけ橋となる」ことが期待されている。

本プランの計画期間の2027(令和9)年度までは、当院は松阪区域の急性期医療を担うとしつつも、将来に向けた機能再編に向け、地域の2基幹病院や急性期医療の受け皿となる病院、地域のかかりつけ医や在宅医療施設、介護事業所との連携の強化を図ることで機能転換・病床再編の準備を行い、状況により柔軟に対応していくことが重要である。

## V. 役割・機能の最適化と連携の強化

### 1. 地域医療構想等を踏まえた松阪市民病院の果たすべき役割・機能

当院ではこれまで地域医療に積極的に貢献するため、二次救急医療の推進・強化や、第二種感染症指定医療機関及び災害拠点病院としての役割を担ってきた。また、急性期医療に関しては呼吸器系疾患で地域の他病院と比較しても多くの患者に対応を行ってきたほか、循環器系疾患や消化器系疾患、腎・尿路系疾患といった高齢者に多く見られる疾患についても、地域の急性期2病院と補完しながら多くの患者に対応をしてきた。

さらに、2008(平成20)年から開設している「緩和ケア病棟」ではがんの終末期患者に対する緩和医療の実践、2016(平成28)年から開設している「地域包括ケア病棟」では急性期治療後の患者の在宅復帰に向けた支援を行っている。そして、在宅医療に関しても訪問看護ステーションや指定居宅介護支援事業所を開設して、急性期から回復期、そして在宅医療まで幅広い機能を担っている。

このような中、地域医療構想においては、松阪構想区域における入院医療需要のピークが2030(令和12)年と見込まれており、これに向けて当院は、松阪区域において今後ますます不足することが見込まれている回復期(地域包括ケア病床)中心の機能に転換し、市内の2基幹病院と病床機能の分化を図り、高度急性期・急性期機能を集約化する一方で、回復期を中心とした病院として運営していくことが地域医療を支えていくために必要である。本計画期間内においては、そのための準備を行うこととするが、状況により柔軟に対応する必要がある。

#### ■ 本計画期間内における機能区分別・種別病床数の見通し

機能区分・種別	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
高度急性期	85床	85床	85床	85床
急性期	182床	182床	182床	182床
回復期	39床	39床	39床	39床
慢性期	20床	20床	20床	20床
感染症	2床	2床	2床	2床
合計	328床	328床	328床	328床



## 2. 地域包括ケアシステムの構築に向けて松阪市民病院の果たすべき役割・機能

松阪市民病院の在り方検討委員会・検証委員会の提言・答申で求められているとおり、地域包括ケアシステムの構築に向けて、当院は松阪構想区域内における医療・介護・福祉それぞれの間をつなぐための地域医療のかけ橋となるべきである。今後ますます松阪構想区域において不足することが見込まれている回復期機能を有する病床を当院が確保し、高度急性期・急性期の治療を終え、在宅に戻るためのリハビリテーションの提供や、地域の介護施設や在宅においてケア・療養を続けている高齢な患者の一時的な入院への対応などが今後増加していくことを想定し、高度急性期・急性期機能の病床では十分な治療期間が確保できない患者への対応を図るべく、回復期機能への病床の転換を図り、地域医療におけるハブ機能を果たしていくことが役割であると考えられる。

このような見通しを持ちつつ、本計画期間内においては、地域包括ケアシステムの構築に向けた体制作りを進めていく必要がある。

## 3. 機能分化・連携強化

当院が現在提供している高度急性期・急性期機能については、市内の2基幹病院に集約化させるとともに、不足が見込まれるとされる回復期機能を中心に当院が転換を図ること、また、回復期を中心に担う病院として、地域における医療・介護・福祉の各事業者(施設)等との密接な関係を構築し、集約化を図る高度急性期・急性期機能の基幹病院とこれら地域の医療・介護施設等との間をつなぐ病院として連携を強化していくことを、本計画期間内に検討する必要があるが、状況により柔軟に対応する必要もある。

## 4. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

当院がその果たすべき役割に沿った、質の高い医療機能を十分に発揮するとともに、地域において他の病院等との連携の強化を目指し、下記のとおり数値目標を設定する。

### ■ 医療機能や医療の質、連携の強化に係る数値目標

指標	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
手術件数	2,200件	2,191件	2,182件	2,200件
患者満足度	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
臨床研修医の受入件数	12件	10件	10件	10件
紹介率	66%	66%	66%	66%
逆紹介率	50%	50%	50%	50%

## 5. 一般会計負担の考え方

一般会計からの繰入金は、総務省通知に基づき算定している。そのような中、2020(令和2)年度以降は、建設改良費・企業債元利償還金の繰入、救急医療の確保経費、看護師確保の経費が繰入金の主な内訳となっている。

引き続き一般会計からの繰入金は、基準に基づき算定していくと同時に、基準外繰入については、可能な限り抑えていくよう、経営を行っていきたいと考えている。

## 6. 住民理解のための取組

当院の果たしていくべき役割や機能の発揮に向け、これまでホームページや病院広報誌等を通して、地域住民に対し情報発信を行ってきた。

また、当院の今後のあるべき姿について検討を行ってきた、松阪市民病院の在り方検討委員会・検証委員会においても地域住民の代表に参画いただくとともに、両委員会ともに公開の下実施してきた。

今後も引き続き、当院から情報発信を様々な媒体で行うこととする。

## VI. 医師・看護師等の確保と働き方改革

少子高齢化や人口減少社会が進展する中、松阪区域の人口は2020(令和2)年にはすでにピークを経過しており、今後も人口推計で予測されるとおり、0歳から14歳までの年少人口及び、15歳から64歳までの生産年齢人口についても減少が見込まれる。県内全体でも同様の動向ではあるが、松阪区域においても、働き手不足ひいては医療人材不足が懸念される。

### 1. 医師・看護師等の確保

当院は、関連大学からの医師派遣を中心に医師確保を行っている。また、一部の診療科においては当院で初期研修を行った医師が、その後専攻医として残り、当院で勤務をしている。

加えて、勤務する医師の積極的な学会等での活動を支援していることもあり、学会での学術的な発表等をきっかけに、当院での勤務を希望する医師の確保につながるケースも見られた。引き続き、関連大学と連携・協力をを行いながら医師の確保に取り組む必要がある。

また、当院は南勢志摩医療圏の基幹病院でもあるため、これまで医師が充足していない地区への診療応援医師の派遣も行い、他病院の医師の確保にも貢献をしている。引き続き、医師が不足する地区への診療応援を継続することで、医療圏全体の医師の確保に貢献する必要がある。

看護師については、新卒看護師の確保に向け、看護学生の実習の受入れを行うとともに、看護学生に対する当院の認知度向上を目的にSNS等も通じた広報に取り組んできた。また、潜在看護師の確保に向け、当院では復職支援に向けた研修会を年2回実施し、安心して看護師として職場復帰できるよう支援を行っている。今後も引き続き、新卒看護師や潜在看護師の確保に向け、これまで実施してきた取組を継続して行うとともに、県外にいったん流出をした看護師のUターンに対する宣伝・広報活動に注力していく。

### 2. 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保

当院は初期臨床研修医の確保に向け、質の高い院内の臨床教育体制を整備するとともに、県外出身の医師にも当院での初期研修を選択してもらえるよう、三重県の魅力や当院の強み等を広く情報発信を行っている。引き続き、若手医師に対する情報発信を行うとともに、臨床研修医に当院が選ばれるよう、研修環境の整備等を行っていく必要がある。

### 3. 医師の働き方改革への対応

医師の働き方改革に向け、当院では医師事務作業補助者の活用や多職種によるタスクシフト・タスクシェアに取り組んでいる。引き続き、医師事務作業補助者の活用、タスクシフトに取り組むことで働き方改革を推進するとともに、適切な労務管理による時間外勤務時間の削減や有給休暇の取得を推進し、健康でその人らしい働き方が実現できる職場環境の構築を目指す。

## VII. 経営形態の見直し

松阪区域は、人口減少に伴う医療人材不足に対する懸念や高齢化に伴う疾病構造の変化に加え、新型コロナウイルスなどの新興感染症への平時からの対応、働き方改革への対応といった新たな課題に直面している。

松阪区域の急性期医療を中心的に担っている3基幹病院では入院患者数も減少傾向にあり、それぞれの経営にも影響を及ぼし始めているところでもある。

患者数の減少は症例や手術件数を確保することで、研鑽が積まれる若手医師の確保にも影響が及ぶことが懸念される。そこで松阪区域で質の高い医療を持続的に提供していくためには、急性期機能を集約することが必要である。また、新型コロナウイルス感染症対応においては、急性期機能の集約化が必要であることを全国の対応病院があまねく痛感したところである。

そこで、単に当院の急性期機能を区域内的の2基幹病院に集約し、地域包括ケア病床を中心とした回復期機能に転換しようとする場合、現在、主に急性期医療を担っている当院の医師や医療スタッフが引き続き急性期医療に携わりたいとして他の環境を求めて多くの人材が流出する懸念がある。さらには、今日、結婚や出産、育児などのライフステージの変化に応じて長期に渡り働き続けることができる職場環境が求められている。

このように機能転換を行う際には医療従事者の流出を抑え、1組織としてスムーズな人員の配置を可能とするうえで指定管理者制度の活用が考えられる。この場合、松阪市民病院と指定管理者側の両方の職員が回復期から高度急性期までの多様な働き方を選択することができ、有事に備えて強靱な医療提供体制を構築できるとともに、松阪市の政策を反映させることができると考えられる。

以上のことから、当院は指定管理者制度への移行に向け、本計画期間内で候補団体等と様々な調整・協議をおこなうこととする。

## VIII. 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

新型コロナウイルス感染症対応に関して、三重県や松阪区域においては公立病院や公的病院等に限らず、地域の医療機関が協力体制をとりながら対応を図ってきた。その中でも当院は呼吸器内科医が他院よりも充実していたことに加え、高い使命感を持つ看護師等の職員により、多くの患者に対応することができた。

一方で、新型コロナウイルス感染症対応の際には、通常の医療をある程度犠牲にしていかなければならなかったことや職員の疲弊が見られた。今後の新興感染症感染拡大期においては、高度急性期医療等の平時の医療提供とともに新興感染症の対応を持続可能とするために、急性期機能を集約し、安定的に運用ができるような体制を構築するとともに、病院自体を感染対策しやすい構造にしておくことが求められることも明らかとなった。

また、新興感染症に罹患した患者の重篤な時期の病床を確保しておくことに加え、自宅に戻ることができるまで入院できる病床も松阪区域に確保しておくことが、今後求められることも明らかとなった。

これらの新型コロナウイルス感染症での経験を踏まえ、急性期機能を担う医療機関の医療活動を持続可能なものとするため、松阪区域の3基幹病院の急性期機能を集約し、より強靱な高度急性期・急性期医療の提供体制の構築を進めると同時に、回復期機能の充実を図る。

また、新興感染症の発生に備え、感染症に対する専門的な知識や経験を有する人材の育成・確保に努めるとともに、感染防護具等の備蓄に向け、安定した納入ルートの確保に取り組むとともに、院内感染対策の徹底に向け、全職員に対する研修の実施に引き続き取り組む。

## IX. 施設・設備の最適化

人口減少や少子高齢化の急速な進展に伴い、受診患者数の減少が見込まれるなど、今後の当院の経営は、より一層厳しくなるものと考えられる。このように医療需要が変化していくことを踏まえ、長期的な視点をもって、病院施設や設備の長寿命化や更新などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、投資と財源の均衡を図ることが必要である。

### 1. 施設・設備の適正管理と整備費の抑制

当院はこれまで定期的に施設や設備に対する更新をしてきているが、本館(西病棟・東病棟)はおよそ築30年、新館(新病棟)は築16年が経過したところである。

本館については、老朽化が進んでいる部分もみられるため、今後も引き続き適切な維持・管理を行い、修繕の時期が偏らないよう、費用を平準化しながら修繕を行っていく。

設備については、2024(令和6)年度から2027(令和9)年度にかけて新館及び本館の空調設備の更新を計画していることに加え、今後の医療提供体制を維持していくための医療機器やシステムの導入・更新が必要となる。特に2026(令和8)年度は電子カルテサーバーの入替えが控えているため、該当年度は計画の中でも企業債発行額が膨らむことが想定されている。

引き続き、過剰投資とならないように、診療部門と管理部門が厳格に審査・選定を行いながら適切な範囲で投資を行っていく。

### 2. デジタル化への対応

当院では、電子カルテや各医療情報システムの導入・活用、近年ではマイナンバーカードによる資格確認への対応等を行ってきた。

今後も医療分野におけるデジタル化の推進については、マイナンバーカードのさらなる活用に向けた積極的な利用促進を行っていくほか、国や県、近隣病院の動向も踏まえながら、適切に対応を進めていく必要がある。特に今後は電子処方箋の導入、オンライン資格確認を使える業務や患者の拡大に向けた対応を進めていく。

また、近年では医療機関が標的となるサイバー攻撃もみられるため、医療情報システム安全管理ガイドラインに則った対策と職員への教育を進めていく。

## X. 経営の効率化

### 1. 経営指標に係る数値目標

#### (1) 収支改善に係るもの

指標	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
経常収支比率	101.4%	100.8%	100.8%	100.6%
修正医業収支比率	99.5%	99.4%	99.4%	99.8%

#### (2) 収入確保に係るもの

指標	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
1日平均入院患者数	289人	289人	289人	289人
1日平均外来患者数	470人	470人	470人	470人
病床稼働率	88.1%	88.1%	88.1%	88.1%
平均在院日数	13.5日	13.5日	13.5日	13.5日

#### (3) 費用削減に係るもの

指標	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
材料費率	36.0%	36.0%	36.0%	36.0%
後発医薬品の使用率	76.0%	76.5%	77.0%	77.5%

※すべて医業収益に対する比率

#### (4) 経営の安定性に係るもの

指標	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
年度末医師数 (常勤換算)	46.3人	46.3人	46.3人	46.3人
企業債残高	2,045百万円	2,544百万円	2,699百万円	2,648百万円

## 2. 目標達成に向けた具体的な取組

2022(令和4)年度決算まで経常収支は黒字の経営を行ってきた。2023(令和5)年度は新型コロナウイルス感染症に対する病床確保に係る補助金の縮小や診療報酬の臨時的取扱いが解除されたものの、経常収支比率が100%を超えるように目標設定をし、全職員一丸となって病院運営にあたっている。

本プランの計画期間内においては、新型コロナウイルス感染症の影響による患者減少を踏まえつつ、2024(令和6)年度以降の診療報酬や介護報酬の動向を踏まえた経営を行うことが重要である。

### (1) 収入増加・確保対策

- 入院患者の確保については、当院の強みとなっている呼吸器内科等の診療部門を中心に、より強固な診療体制とし、集患を図る。
- 当院の役割・機能に応じた施設基準の届出及び診療報酬の算定を行い、診療収益の確保に努める。
- 地域におけるシームレスな連携体制の構築を行い、より地域の医療機関にとって当院を利用しやすい環境を整備し、患者の確保と病床稼働率の向上に努める。

### (2) 経費削減・抑制対策

- ジェネリック医薬品の採用増を図る。
- 業務改善による時間外勤務の抑制を図る。

### (3) マネジメントの強化

- 病院経営に対する専門性を持った職員の育成によるマネジメント力の強化を図る。
- 引き続き人事評価システムの運用を行う。
- 診療科ごとの目標達成度の見える化を図る。



### 3. 収支計画

収益的収支(単位:千円)

収益的収支	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
<b>医業収益</b>	<b>10,901,300</b>	<b>10,902,511</b>	<b>10,886,611</b>	<b>10,942,912</b>
入院収益	6,353,598	6,353,598	6,353,598	6,371,005
外来収益	4,354,566	4,340,983	4,323,045	4,358,921
その他	193,136	207,931	209,968	212,986
(うち他会計負担金)	68,160	68,160	68,160	68,160
<b>医業費用</b>	<b>10,891,450</b>	<b>10,897,236</b>	<b>10,882,288</b>	<b>10,897,758</b>
給与費	4,634,416	4,639,050	4,639,097	4,643,736
材料費	3,928,283	3,925,636	3,913,742	3,941,180
経費	1,530,549	1,492,080	1,492,156	1,528,693
減価償却費	720,639	768,362	766,820	710,555
その他	77,563	72,107	70,474	73,594
<b>医業損益</b>	<b>9,850</b>	<b>5,275</b>	<b>4,323</b>	<b>45,154</b>
医業外収益	914,004	901,237	906,624	863,717
他会計負担金・補助金	304,509	284,400	290,787	296,778
その他	609,495	616,837	615,836	566,939
訪問看護ステーション事業収益	17,724	18,807	18,729	18,885
居宅介護支援事業収益	4,625	4,625	4,625	4,625
医業外費用	732,164	782,676	790,207	808,513
支払利息	25,152	15,830	16,635	16,616
その他	707,012	766,847	773,572	791,897
訪問看護ステーション事業費用	41,350	41,813	42,206	42,620
居宅介護支援事業費用	9,018	9,139	9,303	9,478
<b>経常損益</b>	<b>163,671</b>	<b>96,317</b>	<b>92,586</b>	<b>71,770</b>
特別利益	100	100	100	100
特別損失	7,000	10,000	10,000	10,000
純損益	156,771	86,417	82,686	61,870
<b>経常収支比率</b>	<b>101.4%</b>	<b>100.8%</b>	<b>100.8%</b>	<b>100.6%</b>
<b>修正医業収支比率</b>	<b>99.5%</b>	<b>99.4%</b>	<b>99.4%</b>	<b>99.8%</b>

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

資本的収支(単位:千円)

資本的収支	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度
企業債	549,000	524,000	757,900	782,000
他会計負担金	378,950	227,214	229,873	282,002
その他	110	110	110	110
<b>資本的収入</b>	<b>928,060</b>	<b>751,324</b>	<b>987,883</b>	<b>1,064,112</b>
建設改良費	611,706	612,211	820,490	833,412
企業債償還金	675,604	428,105	434,748	539,005
投資	67,678	67,678	67,678	67,678
<b>資本的支出</b>	<b>1,354,988</b>	<b>1,107,994</b>	<b>1,322,915</b>	<b>1,440,095</b>
差引不足額	426,928	356,670	335,032	375,983

注:集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。